

森の学校 だより

ろうきん森の学校全国事務局 419-0305 静岡県富士郡芝川町下柚野165 TEL:0544-66-0790 FAX:0544-67-0567
URL: <http://www.wens.gr.jp/npo/morinogakko/top.htm> E-mail: forest@wens.gr.jp

森の人 Who's Who!?

森のことは 現場で汗を流さなきゃ 理解できないよ

Q…子どものころから山が好きだったんですか？

実家は海のスズそば。海で遊んで育ちましたでも、高校時代に山に興味をわいて山岳部に入り、大学も日本アルプスに近い信州大学の林学科を選びました。8,000m級の山にも登りましたよ。卒業後、社会人も経験し、大学院で勉強をし直して伐採業者や森林組合の作業員として働き始めたんです。森林整備を請け負う「きこり」の親方として独立したのが30歳。その後、



鈍の錆は木の皮を
削んだお手製

教壇にも立ったけど、週に3日は森に入って授業をしました。やっぱり、森のことは現場で汗を流さなきゃ理解できないと思うんです。

Q…日本の森を良くするには何が必要ですか？

日本の森の多くは人工林や里山など人間が継続的に関わる必要がある森です。しかも、気候は温暖湿潤だから、森に光さえ入れれば植物は育つ。だから間伐が必要なんです。でも、皆伐して植林した方が補助金が出て儲かる。一般の方たちにも、いまだに木を伐るのは悪で植林さえすればいいと信じる人がいるんです。だからこそ、森に入って現状を知り、そこに手を入れることで森がどう変わるのかを見てもらいたいですね。

Q…スウェーデンの林業も視察したそうですね

2004年に行ったんですが、あちらでは行政、大学、経済界が森をよくしようと同じ方向を見て

知識も技術も併せ持つ “森語”の話せる技術者を

お話をする人 内田健一（うちだ けんいち）さん

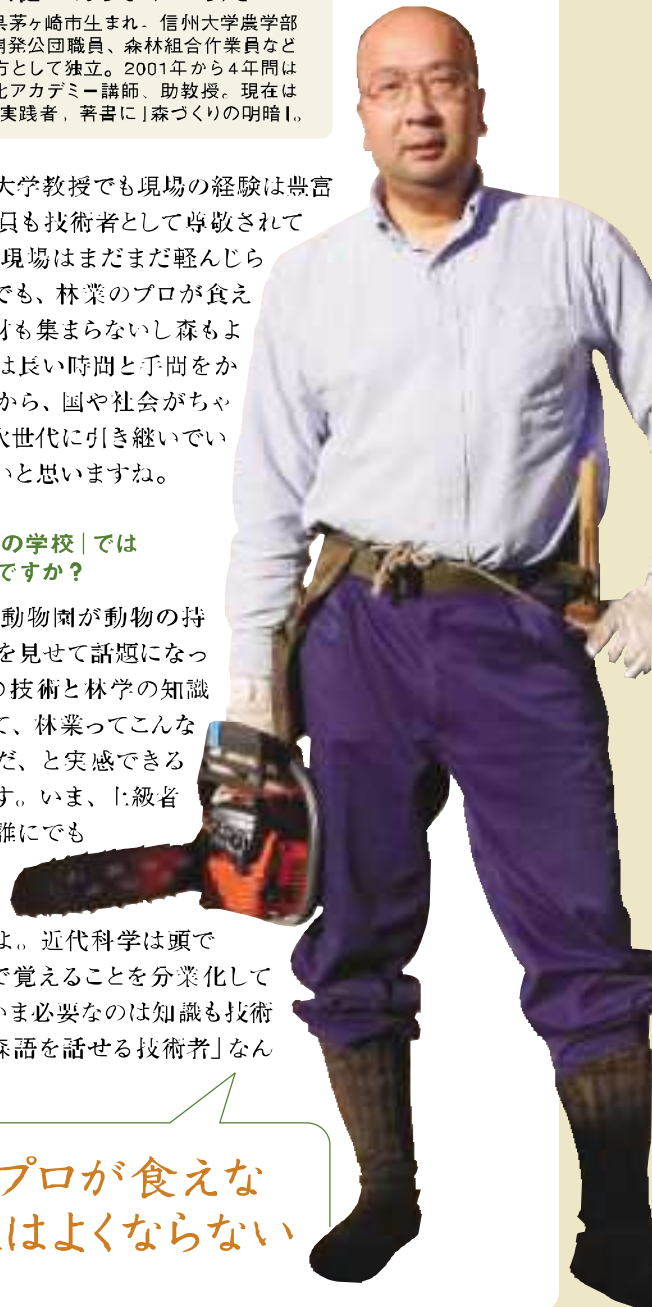
1967年、神奈川県茅ヶ崎市生まれ。信州大学農学部林学科卒。森林開発公団職員、森林組合作業員などを経て林業の親方として独立。2001年から4年間は岐阜県立森林文化アカデミー講師、助教授。現在はフリーの森づくり実践者、著書に「森づくりの明暗」。

頑張っている。大学教授でも現場の経験は豊富だし、森林作業員も技術者として尊敬されている。日本では現場はまだまだ軽んじられていますよ。でも、林業のプロが食えなきゃ、いい人材も集まらないし森もよくなりません。森は長い時間と手間をかけた財産なんだから、国や社会がちゃんと投資して、次世代に引き継いでいかなきゃいけないと思いますね。

Q…「ろうきん森の学校」では何をしたいですか？

北海道の旭山動物園が動物の持つ能力のすごさを見せて話題になったように、プロの技術と林学の知識をきちんと見せて、林業ってこんなにおもしろいんだ、と実感できる企画を計画中です。いま、上級者から初心者まで誰にでもわかる、森を育てる技術の本も書いてるんですよ。近代科学は頭で考えることと体で覚えることを分業化してしまっただけ、いま必要なのは知識も技術も併せ持った「森語を話せる技術者」なんです。

林業のプロが食えな
きゃ、森はよくなりません





全国の環境教育関係者が集う「清里ミーティング」でも紹介!



手作りのブランコでくつろぐ参加者

「CSR」という言葉を聞いたことがありますか。CSRとは「Corporate Social Responsibility = 企業の社会的責任」という意味です。これまで企業は事業を通じて製品やサービスの提供、雇用の創出といった「社会的責任」を果たしてきました。しかし近年は、企業にも営利追求だけではなく長期的視野に立った環境や社会に対するCSRへの取り組みが求められています

ろうきん森の学校は、労働者のための金融機関である「ろうきん」の中央金融機関である労働金庫連合会(略称:労金連)から支援を受けています。森の中で行う様々な活動が、人々に癒しと身体を動かす喜びを与え、さらには環境教育や地域づくりにも貢献するCSR活動のひとつとして期待されているのです。

昨年行った労金連職員向けの「ろうきん森の学校体験入校」では、都心のオフィスを離れて富山麓で竹細工やブランコを作ったり、たき火をしながら料理を楽しむなど、のんびりとした時間を過ごして、最初は緊張していた職員一人ひとりの表情が最後にはとてもいきいきとした笑顔に変わりました。参加者・実施者ともに、自然(森林)の持つ力を実感した体験入校でした。

企業の環境分野でのCSR活動が、従来の植林にとどまらず森林環境教育や森林療法などにも広がりつつあるなか、企業とNPOの協働事業である「ろうきん森の学校」は各地で注目されています。

ありっちょの 体当たり 体験レポート vol.4

森はやっぱり 体にいい!

～「森林療法研究会」in 静岡～



体験する人
有正あかね

“ありっちょ”こと、有正あかねは「ろうきん森の学校」の全国事務局担当。前職の教員時代に、自然体験で子どもたちの目が輝くと実感。現在は、小丸アース自然学校で奮闘しつつ、環境教育のプロを目指しています! さて、今日のありっちょはどこへ行く?

今回はちょっと趣向を変えて室内での体験、その名も「森林療法研究会」に参加してきました。もしかして、ろうきん森の学校の活動も森林療法!? なんて、気になってしまったのです。

まだ紅葉の美しい12月2日、静岡



県日本平のホテルに、お医者さんから学校関係者、障害のある子どもを持つ親御さんなど約200名が森林療法の事例発表を聞きに集まっていました。かしこまった雰囲気、私はちょっと場違い?

「療法」と聞くと特別なことのように感じるけど、森の中で「楽しい」と感じることに、特に森の中での作業が体にも心にも良いのだとか! なんと、森の学校ではバンバン作業をしているではないか!! でも、決して心や体にストレスにならないようにするのがポイント。ろうきん森の学校も「楽しく、無理なく、心地よく」を心がけていきたいものです。

この日、印象に残ったのは、登山家

で医師でもある今井通さんの基調講演。「動物としてのヒトは、自然(森)の中であまよく生きられるような体になっている」。自然(森)を離れて2004年、文明の発達で人間は便利になったけれど、ヒトへの悪影響は多いといいます。自然の力に包まれ、ヒト本来の力を活発にさせるのが森林療法なのでしょうか。お話を聞きながら、森に出たくてムズムズしたありっちょでした。ろうきん森の学校の活動も立派な森林療法ではないでしょうか。さあ、森へ出かけて元気になるっ!!

…森林療法…

ここ数年の検証で、森の中で過ごすストレスを軽減したり自然治癒力を高めたりすることが医学的に証明された。



冬は富士山がよく見えます



冬は空気が澄んでいるので、富士山がとてもきれいに見えます。夕暮れ時に刻々と色を変化させていく富士山は格別ですよ。



富士山の伏流水が育てた酒

柚野にある酒蔵「富士錦」では、12月から新酒が徐々に発売中、日本酒のほかに、地元の梅や柚子を使ったワインなどもあります。

●ムササビの視点で森を見よう!

去る10月、田貫湖エリアでは「ムササビ」をテーマにワークショップを行いました。講師は国内有数のムササビの専門家、岡崎弘幸先生。NHK高校講座でもお馴染みの先生はとっても話し上手。「中国にはムササビのフンを使った漢方薬があるんです」「古代遺跡からムササビのはにわも出土して



私たちもムリリビポーズ!!

いるんですよ」と興味深い話をまじえてお話をして下さいました。ムササビは人里にも生息していますが、その生態には謎が多いのです。1日目はフィールドサイン探しと観察会、2日目は巣箱づくりと設置の作業を行い、「彼らにとって棲みよい森」について話し合いました。ムリリビが巣箱に入ったら、観察会や生息圏の調査も行っていく予定です。

●親子で過ごす森の時間

9月最後の週末、元気いっぱいの幼児たちが集まりました。今回の「親子で過ごす森の時間」は、講師に「森の幼稚園」活動の実践者、小曾江美氏をお招きして海外での活動事例なども紹介をしていただきました。とにかく

森の中でたくさん遊んだ2日間! 冷たい川でびしょびしょになったり、ヒノキの丸太切りで汁をかいたり。2日目は親子別行動。大人たちは「たき火カフェ」でゆ〜っくり♪ 子どもたちは探検に出発!! 「あ、カエル」「わあ、おぼけかぼちゃだ」…。子どもたちも自然のなかでたくさんの発見があったようです。



親子でごろごろ、リラックス

ドイツで広がる

「森の幼稚園」



「森の幼稚園」は、1950年ごろにデンマークで生まれ、その後ヨーロッパに広がった活動で、ドイツでは国の認可を受けた団体が300以上もあるそうです。活動形態は年間を通して森で過ごす幼稚園から、普通の幼稚園が定期的に森に通うかたちまでさまざまです。教育を受けた先生のもと、子どもたちが五感を使って想像力、身体能力、社会性を身につけていく考え方は、最近わが国でも注目され始めているようです。

寒い季節。熱〜いキノコ汁はいかが



雪が降るとあたり一面真っ白に。今年の雪はどうか？



湯ノ岳エリアには、いろいろなキノコが自生しています。森の手入れで、さらに種類も増えてくれそうです。クリタケ、ナラタケ、キクラゲも採れます。

アツアツの鍋に舌鼓

福島県の冬の味覚のひとつがアンコウ。小名浜やいわき市内の旅館では12月〜3月の期間、アンコウ祭りを開催。「吊し切り」でさばかれたアンコウは鍋にリイコウ！

●「ふゆみずたんぼ」に挑戦中

岩出・好間地区では、2005年から休耕田を利用して「ふゆみずたんぼ(冬季湛水不耕起栽培)」による無農薬・無化学肥料の米づくりを、また、会津(下郷町)ではソバを栽培しています。昨年秋もみんなで収穫を行いました。岩間地区ではビオトープの代わりに田



おいしい新米のためにがんばるぞ！

んぼを作ったため、米の収量より生き物を豊かにすることに主眼をおいて取り組んでいます。いろいろな生き物が見られるようになってきましたが、特にメダカの増加は著しく、多くの人に楽しんでいただいています。生き物調査も行っているのです。1〜2年後には田んぼと生き物との関係も明らかになると思います。

●「森林づくりのための技術研修会」開講！

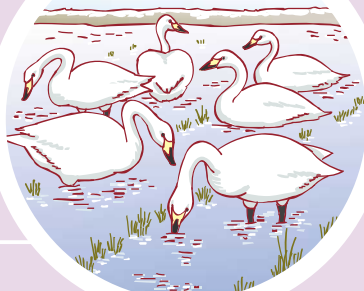
昨年7月から「自然案内人養成基礎講座(全コース8日間)」を月1回のペースで実施しています。現在、20名の方が、身近な自然との付き合い方、自然観察や自然案内の方法などの基礎を学んでいます。日本自然保護協会の

講師の方を招いて、いわきの自然や森林生態の講義と演習なども実施しました。また、12月からは「森林づくりのための技術研修会(初級編全7日間)」も開講しました。詳しくはお問い合わせを！



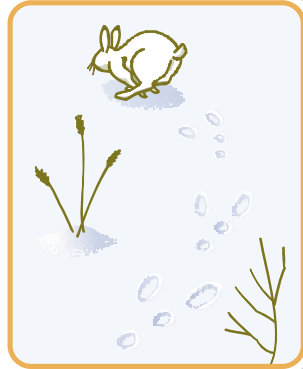
メセとりながら真剣に学ぶ参加者

ふゆみずたんぼ



「ふゆみずたんぼ」とは、冬季湛水不耕起栽培、つまり冬も田んぼに水を張り、翌春も田んぼを耕さずに稲を育てる方法です。冬には水場を求めて水鳥が飛来し、雑草の種を食べ肥料となる糞を落とします。春には水面に藻類が繁殖して雑草が増えるのを抑えます。生き物の生息場所を増やし、兵庫県では「ウノトリ」を育てる米として認知度も上がりました。いわき市に飛来するハクチョウが岩出・好間地区のふゆみずたんぼに来る日も近い！

森の冬じたくも できました



森にはコゲラやシジュウカラに混じり、キクイタダキが鈴の音でさえずります。雪が降ると野ウサギの足跡が目立ちます。



うまいぞ

レンガ作りパン焼き窯、人さな羽釜を利用した団扇焚風の火鉢もそろいました。

冬はやっぱり温泉です
道の駅「豊平どんぐり村」内の「どんぐり荘」には地下600mから引いた「産産温泉」があります。森の作業の汗と疲れはここで流そう！

●「出前クラフト教室」開催

去る8月20日、地元のオオサンショウウオの保護活動を行っている「サンちゃんS村」のイベントで、森の学校の出前クラフト教室を行ってきました。当日は、親子を中心に約300名の参加者が訪れ、午前中はオオサンショウウオが生息する川で川遊び、お昼はたくさんの屋台料理をいただきました。午



ナイフの扱いにも慣れてきたかな？

後は、わら細工や折り紙教室などにまじって、わが森の学校のスタッフ5名がクラフト教室を開催。小さな子は枝の人形「モックン」、小学生以上の子はジグソーパズルやはしづくりなどを親子で楽しみました。今後とも「サンちゃんS村」とは協力して活動する予定です。

● 広島にも「ハウル城」完成!?

「森の遊び場においておいしい食べ物は必須だね!」。そんな言葉から始まったパン焼き窯作り。平日作業隊が毎週集まり、設計から建設まで2カ月をかけて完成させました。「ハウル城」と命名された窯のデビューは10月29日。平日作業隊で森の学校の「親方」とも呼ばれる松谷さんによる火入れ式の後、

山口県で食育に取り組む徳永豊さんを講師に、国産小麦ニシノカオリでパンを焼きました。「この小麦は香りが強いね」「懐かしい味!」と評判はトク。11月には森の学校周辺の畑に小麦を植え、自家製小麦でパンを焼く「小麦プロジェクト」も始動しました。



香り高い自家製パン。おいしかった!



世界最大の両生類 オオサンショウウオ

最大で体長140cmにもなる世界最大の両生類で、国の特別天然記念物。つから2億4年前、中生代初期に繁栄したと言われ生きた化石とも呼ばれます。日本では岐阜県以西の本州・九州北部の山地の渓流に生息し、魚やサワガニ、カエルなどを食べます。中国地方はその生息地が多く、広島県でも八田川、江の川、高梁川水系で確認されており、広島市安佐動物公園は世界で初めてその繁殖に成功しています。

森の掲示板

道具考

鉈



普通の鉈(下)と、除伐などに使う鉈鎌(上)

短く厚い刃で薪割りや枝打ちなどに使う。西日本は両刃、東日本は片刃が多く、用途によって形も違い、その種類は300種以上ともいわれる。また、昔からこうした刃物の鞘には刃当たりが柔らかくサビ止め効果のある朴の木が使われる。

4

事務局より

ろうきん森の学校も3年目を迎えました。3地区のフィールド整備も順調に進み、作業小屋や遊歩道、展望台などが完成。今年、森に親しむきっかけとなる楽しい活動を充実させ、森林環境教育を担う人づくりにも力を入れていきます。

先日取材した内田健一さんの著書に「森林作業は頭をフル回転させなければ、機能性に優れた気持ちのいい森林などできる訳ない」という言葉があります。内田さんが間伐した伊那谷の森の、木漏れ日が差し込むカラマツ林の空間の美しさ、気持ちよさは今でも強く印象に残っています。現代版・樵(きこり)とも言うべき、プロの森林技術者の哲学と技に触れる場を通じ、森づくりの楽しさ、奥深さを皆さんと考えていきたいです。 ※1/27(土)～28(日)、富士山地区で内田氏をゲストにワークショップを開催。詳細は下記。

ろうきん森の学校 活動予定

活動にはどなたでも参加できます。詳細は各地区の事務局にお問い合わせ下さい。

富士山地区

- 桂野エリア
- 口門湖エリア
- 針殿等エリア

1月

- 20(土) 森をつくろう
～小径づくり～ ②200円
- 21(日) 森をつくろう
～かまどづくり～ ②200円
- 27(土)～28(日) 山人の視点で森をみる
①15,000円(宿泊棟 滞在費含)

2月

- 17(土) 森をつくろう
～間伐～ ②200円
- 18(日) 森をつくろう
～かまどづくり・キノコの菌打ち～
②200円

3月

- 4(日) 森をつくろう
～樹を植えよう～ ②200円
- 10(土) 生き物調査隊
②200円
- 18(日) 大人のこだわり工房
～こだわりの木の器づくり～ ④4,000円

Information
NPO法人ホールゲーズ研究所 担当：山川、井戸
419-0305 富士郡芝川町下軸野165
TEL：0544-66-0790 FAX：0544-67-0567
E-mail：forest@wers.gr.jp

Access
電車：JR身延線「西宮十宮駅」よりタクシー15分
車：東名高速道路富士I.C.より西富士有料道路経由40分



福島地区

- 漆ノ岳エリア
- 若山・好谷・原原エリア

- 20(土) 自然案内人養成基礎講座7 ④無料
 - 21(日) 自然わくわく観察会 ④無料
～冬の自然観察会とキノコの菌菌作業～
- 定例作業(誰でも参加できます。日9時、現地集合)
● 第1、第3土曜日・毎週水曜日…森林整備
● 第1、第3日曜日…調査
● 第2、第4土曜日…自然体験プログラム勉強会
● 第1、第3水曜日・第2、第4日曜日…森林整備

- 10(土) 自然案内人養成基礎講座8 ④無料
 - 24(土) 自然わくわく観察会
～森林整備と炭焼き作業～ ④無料
- 定例作業(誰でも参加できます。日11時、現地集合)
● 第1、第3土曜日・毎週水曜日…森林整備
● 第1、第3日曜日…調査
● 第2、第4土曜日…自然体験プログラム勉強会
● 第1、第3水曜日・第2、第4日曜日…森林整備

- 17(土) 自然わくわく観察会
～春の自然観察会と石ガキ料理～
④無料
- 定例作業(誰でも参加できます。日11時、現地集合)
● 第1、第3土曜日・毎週水曜日…森林整備
● 第1、第3日曜日…調査
● 第2、第4土曜日…自然体験プログラム勉強会
● 第1、第3水曜日・第2、第4日曜日…森林整備

Information
NPO法人いわきの森に親しむ会
970-8326 いわき市湯原町湯原の赤2湯ノ原荘内
TEL：0246-44-3273 FAX：0246-44-3273
E-mail：yurotakesanso@city.iwaki.fukushima.jp

Access
電車：JR常磐線「いわき湯本駅」よりタクシー15分
車：常磐自動車道いわき湯本I.C.より10分



広島地区

- 21(日) 週末森づくり隊
～枝打ち体験～ ③500円

- 3(土) 森のカフェ
③大人2,000円、子ども1,000円

- 25(日) 週末森づくり隊
～枝打ち体験～ ③500円

- 4(日) 週末森づくり隊
～しいたけ菌打ち～ ③500円

- 18(日) 環境教育リーダー講習会
～キッズキャンプ春のリーダー養成～
③3,000円(宿泊費別)

- 25(日) キッズキャンプ冬
～森のかくれがづくり～
③子ども3,000円(小3～)

Information
NPO法人ひろしま自然学校
733-0004 広島市西区打越町11-8-207
TEL：082-237-1163 FAX：082-237-8863
E-mail：nkk2002@mac.com

Access
電車：JR山陽新幹線「広島駅」よりバス60分
車：広島自動車道広島北I.C.より20分

